

市民の学びをまちづくりに活かす

松 澤 利 行
(八潮市役所)

1 はじめに

本稿は、平成22年11月に開催された日本生涯教育学会「生涯学習政策研究フォーラム」において、八潮市民の学びをまちづくりに活かすために取り組んでいる事例として筆者が発表した内容を再構成したものである。複雑多様化するまちづくりの課題を、市民が学んだ成果を活かしながら解決していくための一自治体のアイデア事例として述べるものである。

2 生涯学習まちづくり出前講座

平成6年4月、八潮市は全国に先駆けて「生涯学習まちづくり出前講座」をスタートさせた。行政の全部局がその職務の内容・課題等についてメニューを提示し、市民にメニューから選んでいただき、市職員が講師となって指定された場所に出向いていくもので、商人の精神を生かした制度である。利用できるのは市内在住・在勤・在学の5人以上のグループで、平日・休日を問わず午前9時から午後9時までの間の2時間以内で派遣することになっている。

スタートした平成6年度は市の職員が出向く「行政編」のみだったが、市民要望をふまえ、平成9年度からは「市民編」「民間企業編」「公共機関・公益企業編」「教職員編」の4部門を加えて5部門に、平成11年度からは「サークル編」「行政編ダイジェストメニュー」の2部門を加えて7部門に、そして平成12年度からは「子ども編」を実施して、合計8部門となった。

メニューは年度ごとにリニューアルされるが、平成23年4月現在で222のメニューがある。

実績としては、平成22年度1年間で264件の申し込みをいただき延べ15,315人の受講者となっている。内訳を見ると、行政編では「交通安全教室」「議会のしくみ」などで198件12,463人、市民編では「がんと私」などで15件546人、サークル編では「子どもの食育・大人の食育」など19件735人となっている。他部門は合計34件1,571人で、人気メニューでは子ども編「陸上競技」、公共機関公益企業編「介護予防と地域包括支援センターの役割」、行政編ダイジェスト「健康と食生活ダイジェスト」、民間企業編「おもしろケシゴムのできるまで」、教職員編「楽しい科学講座」などに人気がある。

団体別の申し込み件数では学校や学童クラブからの申し込みが多く、平成22年度では学校からの注文が81件で11,143人の利用があり、小中学校の授業や学校行事で活用されている。市内各地区の学童クラブからの注文は31件で978人の利用だった。最近利用が増えているメニューでは、「赤ちゃんの保育体験・妊婦体験」の申し込みが小学校から多い。

3 やしお市民大学

平成15年4月、八潮市は市民と協働してまちづくりを進めるため、「やしお市民大学」を設立した。授業は、「まちを知る」「教養を高める」「自主研究」「学生企画公開講座」などで年間30単位（1回2時間の授業で1単位）となっており、2年間の学習課程で3分の2以上の単位を取得した場合に卒業を認定する。学習プログラムは、学生からのアンケートをもとに学生代表や市の職員で構成する企画会議で協議し、学長である市長を会長とする運営委員会で決定する。人気のある講座は「カウンセリング入門」「高齢社会の現状」「ディ

ベート」など。職員が講師になっている授業も多くあり、管理職の研修の場にもなっている。定員は1学年30人で、学費は年間1万円である。

平成19年度からは、市民大学卒業生を対象として、地域リーダーの養成を目的とした大学院を開設した。「教育」「福祉」「環境」の3つの領域で構成され、それぞれの分野の外部講師による指導助言により、市役所の各課がサポートしながらゼミナール形式で研究が行われている。研究方法は、指導者とのゼミ5回、自主研究5回、公開の研究発表会1回で、定員は15名、在学期間は1年間である。

市民大学の卒業生は、防災や環境などのボランティアグループを設立しており、平成23年4月に卒業した第7期生のメンバーは卒業と同時にまちづくりのNPOを設立して活動している。また市では、行政のすべての部門で卒業生を積極的に審議会委員等に登用するための働きかけを行っており、現在23の審議会等に39名が委嘱され活躍している。

卒業生の中から希望者に市役所で勤務してもらう「市政推進員制度」も平成19年度から始まった。市役所の窓口等で臨時職員と同様の待遇で一定期間勤務することができる。実績としては、平成20年度には選挙管理委員会に50代女性が勤務し、21年度には国保年金課に60代男性、平成22年度には長寿介護課と「市民協働推進課」にそれぞれ60代女性が勤務している。

4 やしお元気ネット

やしお元気ネットは、平成18年度に設立された会員約120名の市民団体である。定年後の男性の地域参加をお手伝いするプロバイダー役になりたい、との思いで設立されたもので、今までの社会での経験を地域に活かすことを目的に集まり活動している。メンバー同士が共通理解でき、一人でも多くの会員が参加して意見を出せるよう、毎月1回のメンバーズ講座では、手作りの名刺を用意して相互理解と交流を図った。中には「酒席研究員」「主夫」「糖尿・痛風評論家」等真剣な中にもユニークな名刺も目立った。

地域のために具体的な行動を起こそうと、「健寿のつどい」では財団や市の職員と同様に企画段階から参加し、事業運営を行った。また「男女共同参画

セミナー」では、企画から開催に至るまで一切を取り仕切って運営し大きな実績を挙げた。コンピュータ会社の管理職だった男性はパソコンでのチラシ作りや名簿管理、経理事務の経験者は予算・決算の調整など、営業経験者は事業 PR や当日の進行など、メンバーそれぞれが自身の経験を生かし協力して関わったことが成功の要因である。

平成23年4月からはNPO法人の認定を取得し、「つながるネットワーク八潮」として新たにスタートし、高齢社会をテーマとしたシンポジウムを開催したりしている。

5 おわりに

以上、八潮市にかかわる3事例について紹介させていただいた。

出前講座と市民大学の講師は、市の職員が大きなウエイトを占めている。市の職員も「教えることによって学ぶ」ことを実感している。また市民大学の学生は、学ぶ側から卒業後は教える側に立ち学んだ成果を活かしている。

八潮市は平成3年7月に生涯学習都市宣言を行って以来、本年度20周年を迎えた。その間、市民待望の鉄道つくばエクスプレスの開業により駅周辺を中心に人口も増え、また行政内部では大幅な組織改正などがあり、20年の歳月はさまざまな面で八潮市を大きく変えている。しかしながら、「生涯学習によるまちづくり」は平成3年の都市宣言以降八潮市のまちづくりの理念として生き続けている。そして今後も、市民の学んだ成果をまちづくりに活かし、行政も市民もともに学び、ともに知恵を出し合い、ともに行動しながらまちづくりを進めていく。